

平成30年度 第1～6年 図工科 授業改善推進プラン

教科	1学期に実施した課題と工夫	課題を受けた今後の改善策
1・2	【課題】 ★友達の作品に関心をもち、お互いに見合い、よさを見つけられるようにしたい。 ・他の児童の作品の良さをとりあげても、自分が作ることに夢中で、関心を示さないこともあったので他者に目を向けられるようにしていきたい。 ★身近な道具をさらに使いこなせるようにしていきたい。 ・のりの使い方やはさみの使い方についてよく理解できていない児童がいるので徹底していきたい。 【工夫】 ☆相互の学び合いと手立て ・鑑賞の能力を高めるために児童の作品のよさを取り上げ、活動中に(グループ内やクラス内など臨機応変に)鑑賞し合えるようにした。	E相互の学び合いと手立て ・自他の活動の良さに目を向ける習慣を付けさせるためには、はじめのうちは、教師が鑑賞の時間を設定するなどして、他者の作品から学ぶ姿勢を育てていく。 D補助資料の活用 ・のりの使い方やはさみの使い方についてくり返し手本を見せて定着させていく。また、絵や図で示すことで、理解を促していく。
3・4年	【課題】 ★自分たちの作品や身近な美術作品の鑑賞をして、よさや面白さを感じ取りそれを自分の作品への表現や言語活動を含めた表現に生かせるようにしていきたい。 【工夫】 ☆相互の学び合いと手立て ・制作途中の作品をじっくりとみて、材料を取り換えたり、表現と鑑賞が自然に進められたりできるよう、鑑賞の時間を設定した。 ・授業の終わりに相互鑑賞をさせるために作品紹介カードを使って、自分の作品に対する振り返りをさせた。	E相互の学び合いと手立て ・よりよい鑑賞活動をするために、観点を先に示したり、言語化しやすいよう、鑑賞で使う言葉を表にしたりして、自分の思いを言葉を使って表すことができるようにする。 F評価 ・良い観点で鑑賞活動をしている児童の鑑賞カードを読みあげたりして全体に広める。
5・6年	【課題】 ★表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うと共に、表現に適した方法などを組み合わせて表わせさせたい。 ・長い時間をかけて取り組む題材では、本時の目標が定まらず、全体でその日に取り組むべきことに取り組めないこともあったので、徹底していきたい。 ・今までの技能と新しい技能を組み合わせることで、考えることが苦手な児童がいるので、全体で振り返ることで、自然と発想できるようにしていきたい。 【工夫】 ☆補助資料の活用 ・手順通りの作業をするのではなく、材料・道具・方法などを提示し、自分で表したいことを見つけたり、つくり方を工夫したりできるようにした。	A指導目標の明確化 ・自分なりの目標を明確にするために、授業の目標を確認し、ワークシートを活用するなどして、見通しをもってすすめられるようにする。 ・既習の学習を取り入れるために、導入の際、今までの技能と組み合わせられるかを考える時間を全体で取り入れる。 D補助資料の活用 ・見通しをもてるように作品事例を提示したり、制作カードを準備したりする。
今年度の成果と課題 【成果】 【課題】		